

アナメリ がわら版

2008

春

Vol.17

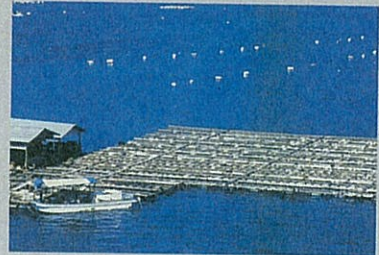


西海市西彼町宮浦から大村湾を眺める

- 大村湾のかがやき 真珠の養殖 2 3
- 大村湾の声 千綿婦人会 (東彼杵町) 4
長与北緑の少年団 (長与町)
- 大村湾にくらす 5
- 県からのお知らせ 6
- 大村湾に関する研究 7
大村湾の郷土料理

～真珠の養殖～

春は卒業・入学式とフォーマルな装いをする機会も増え、アクセサリーの定番である真珠の出番も増えてくる季節です。
さて、この真珠、大村湾において養殖されているのをご存知でしょうか？



養殖いかだ

カキやナマコなどに代表される大村湾ですが、真珠養殖においても対馬に次いで県内2位の生産量を誇っています。ちなみに長崎県は真珠養殖においては全国第1位の浜揚高（H18）となっています。

また、大村湾は現在の球形の真珠（真円真珠）発祥の地でもあり、昨年でちょうど100年を迎えました。

古くから天然真珠の採取が盛んであったことを考えると、波静かな環境が、母貝であるアコヤ貝の生育に適していたのでしょね。

ここで簡単に真珠の養殖の工程についてふれてみましょう。

① 母貝作り

1年から2年かけて母貝となるアコヤ貝を作ります。

② 仕立て

母貝となるアコヤ貝を挿核手術に適した状態にします。

11月から12月頃に目の詰まったかごに移し、3月頃までそのまま潮の流れにあてないよう静かにさせておきます。

③ 挿核手術

春先に真珠の珠となる核とピース（アコヤ貝の外套膜切片）を挿入します。

④ 養殖管理から浜揚げ

沖合の養殖場に移し育成します。（1年～2年）



挿核手術



珠出しの様子

このように、真珠の養殖の工程には高度な技術を伴う手作業もあり、一粒の真珠にかかる手間は想像以上のものがあります。

真珠養殖のいま

現在、大村湾の真珠養殖は形上湾周辺を中心に、西海市や諫早市などで行われています。しかし、ほとんどの養殖業者が夏期や冬期の水温の差が激しいため「避暑漁場」「避寒漁場」をもっており、大村湾から平戸や佐世保、遠いところでは五島まで貝を移動する場合があります、その費用もかなり多額となっています。最近では1年を通して大村湾で養殖する業者はずいぶん少なくなっています。

また、近年、中国の淡水真珠や南洋真珠が市場の大きなウエイトを占めていることや病気によるへい死が多いことなどにより、大村湾の真珠の浜揚げ量が減少しています。

そこで、県では、県内2つの真珠組合で組織する協議会和協力して病気に強いアコヤ貝の飼育管理技術の開発や種苗生産用の親貝選別方法の開発などを行いました。



大村湾のかがやき

真珠養殖のいま



長崎県真珠養殖漁業協同組合 藤田理事長

長崎県真珠養殖漁業協同組合では大村湾をはじめとして県北地域などの漁場の水温や濁り具合、海水中に溶けている酸素の量などの調査を行い県内の組合員へデータを提供しています。

これは、ちょっとした海の変化によりデリケートな母貝が死んでしまうことがあるからです。

大村湾は閉鎖的な海であるため、いったん汚れてしまうと、回復するのにかなり時間を要しますね。



大村湾で30年以上真珠養殖を営んでいる黒木さんをはじめ養殖業者の方にお話をお聞きしました。

みなさん、小さい頃から大村湾に慣れ親しんだ方達ばかりです。現在の大村湾は以前と比べると水質が悪化しているように感じているとのこと、「日々、大村湾の自然環境との戦いですよ」と黒木さん。だからこそ、きれいな真珠ができたときの喜びはひとしおだそうです。

これからも大村湾の宝石を守るため、私たちひとりひとりが大村湾を守っていかなければなりませんね。



写真左から 山崎さん、黒木さん、溝口さん、平尾さん

大村湾連続講座

～海の体験Part 2～

真珠の珠出し体験

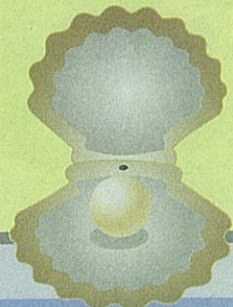
- 日時：平成20年2月17日
- 場所：西海市西彼町宮浦

県が実施している大村湾連続講座においても真珠養殖の歴史や真珠のできる工程、大村湾の環境などについて学びました。

また、実際にアコヤ貝より真珠の珠出しを体験しました。



自分の好きなアコヤ貝を選んで中から真珠を取り出します。きれいな真珠にっこり！



大村湾の



大村湾流域には、豊かな自然や環境を守るため、様々な活動に取り組んでいる方たちがたくさんいます。ここではその声をお届けします。

千綿 婦人会



千綿婦人会では、彼杵婦人会と合同で、昨年より県の「生ごみ減量化パートナーシップ推進事業」の一環でボカシを作り、生ごみにボカシを投入、それを土に戻し健康な土壌を作り、そこから元気な野菜を作ることに取り組んでいます。今回は会長の野中さん、副会長の朝野さんにお話を伺いました。

今年は、一般の方たちにも呼びかけ、ボカシを入れた畑作りを行いました。そこには、そら豆と青菜を植え、ボカシを入れていない畑を併せて作り、収穫して味を比較する予定です。どういう結果になるのやら…。また、千綿小学校へもお邪魔して、4年生といっしょに畑作りを行いました。



このほかにも、マイバック、マイ箸運動にも取り組んでおり、町内のスーパーやコンビニ、道の駅などの協力を得て、レジ袋削減に成果をあげています。

漁業を営んでいる朝野さんによると、以前と比べ大村湾にはずいぶんゴミが増えてきているとか。子どもや孫たちの未来のため、幅広い年齢層の方達を巻き込んで活動を広げていきたいと考えています。



長与北 緑の 少年団



大村湾の南部に位置する長与北小学校区内の児童19名と指導員11名で構成されています。大村湾につながる長与川の清掃活動や町内にある公園の花壇を作る活動をとおして、自然の大切さや仲間と協力することを学んでいます。

例えば、地域の老人会の方と町内に花をいっぱい植え、明るくきれいなまちづくりを目指し活動しています。平成21年度秋に長崎県で開催される全国育樹祭に向けた県内の他の少年団との交流会などへも積極的に参加しています。



また、毎年8月に行われる長与川まつりの際には、長与川の清掃活動やメダカの放流を行っています。



こうした活動が社会貢献への努力として認められ、長崎県教育会から善行児童として表彰を受けました。これからも自然に携わりながら、心やさしい健康で明るい大人を目指して活動していきます。

大村湾にくらす



大村湾の海上交通の要として、空港とハウステンボスや時津港までの定期便や大村競艇開催日に競艇場までのファンサービス船を運行する安田産業汽船株式会社。そこで働き、大村湾をこよなく愛する前田支店長代理にお話を伺いました。

大村市を流れる郡川河口近くの出身の前田さん。

子どもの頃は、大村湾や郡川が一番の遊び場だったそうです。泳ぐことはもちろん、塚を作ってうなぎを獲ったり、ナマコを獲ったりしていました。

当時の大村湾は透明度が高く、ゆらゆらとゆれるわかめなどの海草もよく見えていたんですよ。

その後、大学時代を京都で過ごし、リターンで戻ってきて今の会社に就職し20年になるとのこと。

そんな前田さんが目にしたのが以前と比べて汚れてしまった大村湾の姿でした。特にゴミは船にとっては大敵で、エンジンやスクリューなどを故障させる原因になっているそうです。

「やはり、そこに住む方たちが大村湾への愛着をもつことが大切なのではないでしょうか」と語る前田さん。

昔、大村湾は人や物が行き交う人々の生活に密着した海でしたが、今は高速道路をはじめとした交通網が発達し、人や物の交流も減ってきたとか。地域の方が大村湾に接する機会も少なくなっています。



大村湾の説明をする前田さん（写真中央）

そこで、大村湾をもっと多くの人に親しんでもらおうと、大村湾の自然と歴史をいかしたクルージングを考案中だとか。「大村湾流域は大村藩にまつわる歴史やキリシタン殉教に関するものなど興味深い歴史と自然の宝庫です。是非、多くの人に知ってもらいたいですね」



前田さん（白島をバックに）

そんな大村湾の魅力を知り尽くした前田さんおすすめは朝早い時間帯の大村湾。

風が吹き始める前の早朝の大村湾は穏やかで、白い雲や青い空、離発着する飛行機の姿を映し出し、まるで鏡のようだとか。

一人でも多くの方が大村湾に関心をもつこと。そうすれば、きっとこの海を守っていくことができるのではないのでしょうか。

県からののお知らせ

大村湾連続講座

【第4回】大村湾の水をきれいに
 ◎期日：平成19年11月25日（日）
 ◎場所：大村湾南部浄化センター（諫早市貝津町）ほか



私たちがお風呂や台所で使った水がどのように処理されて大村湾へと流れていくのか、大村湾南部浄化センターで生活排水の浄化について学習しました。



簡単な水質検査を体験中。家庭からの排水や浄化センターの放流水、大村湾の水を比較してみました。

大村湾を清掃する船「ウオータースパイダーI」の見学。ハウステンボスと県、大村湾流域の市町が協力して運行しています。



絵と感想文をお書きください
 小学校5年生 名曹山下 隆祐
 今日の講座もとてもおもしろかったです。なかでも水質検査やウオータースパイダーIの見学が大好きです。水質検査では水の色やにおいなどの変化が面白かったです。ウオータースパイダーIは、ごみをすいどうのことがかっこよく、また、大村湾連続講座に行きたいです。

大村湾ネイチャースクール

◎期日：平成19年12月9日（日） ◎場所：大村市内
 大村湾流域の小学校5,6年生を対象に野鳥観察を中心としたネイチャースクールを大村市で実施しました。
 冬場は大村湾で多くの水鳥を観察することができます。



双眼鏡や望遠鏡を使って大村湾に浮かぶ鳥たちを観察。「見えた！」



絵と感想文をお書きください
 小学校5年生 天村市立竹松 小中学校
 今日、鳥の観察や鳥の鳴き声など、鳥の名前や、鳥の観察など、鳥の観察が楽しかったです。今日は、鳥の観察が楽しかったです。今日は、鳥の観察が楽しかったです。

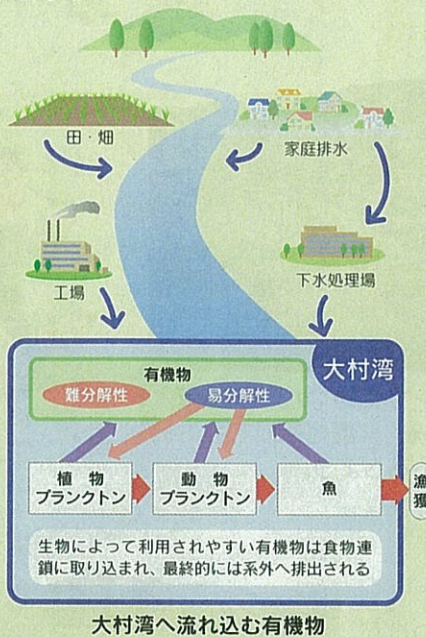
大村のネイチャースクールに行くと、いろいろな鳥を観察しました。野口 未真
 十二月九日に冬鳥を観察しに行きました。鳥の観察が大好きです。なかでも、鳥の観察が楽しかったです。今日は、鳥の観察が楽しかったです。

大村湾における有機物の実態調査

長崎県環境保健研究センターで取り組んでいる大村湾に関する研究紹介の第3弾です。

大村湾は、県の中心部に位置し長崎県の空の玄関口でもあります。見た目はきれいに見えるのですが、その水質は昭和51年度以降、化学的酸素要求量(COD:水質の汚れの指標)が2mg/l(環境基準値)を超過した状態が続いています。県や市町は工場・事業場に対する厳しい排水規制や、公共下水道整備等対策を講じていますが、いまだに基準を達成できておりません。

大村湾は、外海との海水交換が少ない閉鎖性水域ですので、入ってきた汚れ(有機物)が外海に出ていきにくく、また、この有機物のなかでも微生物などにより分解されにくいもの(難分解性溶存有機物)が原因で、通常の海水よりCODの値が低くなりにくいのではないかと考えられ、その実態調査を行っています。原因がわかれば、水質改善のための対策に役立つものと思われます。



大村湾へ流れ込む有機物

大村湾に関する研究



長崎県環境保健研究センター
s26210@pref.nagasaki.lg.jp
〒856-0026
大村市池田2丁目1306番地11
大村ハイテクパークNERC上
TEL 0957-48-7560
FAX 0957-48-7570
http://www.pref.nagasaki.jp/kanhoken/

大村湾の郷土料理 芋のつきあげ

大村湾流域には、ナマコやシャコなどの水産物からみかんやぶどう、イチジクなどの果物といった農産物が豊富にあります。ここでは豊かな農産物を使った大村の郷土料理「芋のつきあげ」を大村市三城にある郷土料理復活伝承クラブの濱口さんとクラブのみなさんにお聞きしました。



郷土料理復活伝承クラブは大村市三城にある平成19年6月に発足したクラブで、代表である濱口さんほか15名ほどの会員で活動しています。これまで8回ほど活動しています。今回は、大村市の食生活改善指導員である中野良子さんほか2名の方から指導を受けながら「芋のつきあげ」のほかにお正月料理を作りました。



大村にはおいしいものがたくさんあります。是非、みなさんにも食べてもらいたいですね。(写真左が濱口さん)

【材料】

芋……………1kg
さとう…………40g
小麦粉…………100g
しょうが…適宜
揚げ油



和気あいあいとした雰囲気なか次々と料理が出来上がります。



この目のメニューは、煮なます(写真左下)、だし巻、錦卵、田作り、黒豆も加わり、お正月メニューの出来上がり。

【作り方】

1. 芋はふかして皮をむき、マッシャーにかけてつぶす。
2. 1にさとうと小麦粉をよく混ぜる。食べやすい大きさに平たく丸める。
3. お好みに応じてしょうがのすりおろしまたははしほり汁を入れる。
4. 油で揚げる。

* さとうと小麦粉は甘い芋、水気が多い芋など芋によって加減する。

地元の食材を使って、昔から作られてきた料理をこれからもどんどん作ってみなさんに広めていきたいですね。

大村湾のおすすめスポット

鬼木の棚田 (波佐見町)



「日本の棚田百選」の一つに選ばれている鬼木の棚田。その眺めは伝統的な農村景観を今に伝える貴重な財産といえるでしょう。



毎年、秋には棚田まつりが開かれ、多くの人で賑わいます。

スナメリ情報

平成20年2月4日、大村市富の原の海岸でスナメリの死骸が漂着しているのが発見されました。体長122cm、体重29.1kgの雄で、6~7才くらいであると推測されています。



このスナメリ、長崎大学水産学部にて学術解剖されたあと、はく製標本にすることも検討されています。



<お詫びと訂正> 冬号「おすすめスポット」において、本文中、上山公園(諫早市)が「本県で唯一「日本の歴史公園100選」に選定されました。」と記載していましたが、大村公園(大村市)島原城跡公園(島原市)が選定されておりましたので訂正し、お詫びいたします。

大村湾周辺にお住まいの皆様の情報誌です。

フナメリがわら版

大村湾に関する環境情報を提供してください。

- 長崎県環境政策課 ◎電話 095-895-2355 ◎FAX 095-895-2566
◎E-mail omurawan@pref.nagasaki.lg.jp
- 長崎市環境保全課 ◎電話 095-829-1156 ◎FAX 095-820-0316
- 佐世保市環境保全課 ◎電話 0956-26-1787 ◎FAX 0956-34-4477
- 諫早市環境保全課 ◎電話 0957-22-1500 ◎FAX 0957-22-9137
- 大村市環境保全課 ◎電話 0957-53-4111 ◎FAX 0957-54-0404
- 西海市環境政策課 ◎電話 0959-37-0065 ◎FAX 0959-23-3101
- 長与町環境対策課 ◎電話 095-883-1111 ◎FAX 095-883-2061
- 時津町住民環境課 ◎電話 095-882-2211 ◎FAX 095-881-2764
- 東彼杵町町民課 ◎電話 0957-46-1111 ◎FAX 0957-46-0884
- 川棚町町民生活課 ◎電話 0956-82-3131 ◎FAX 0956-82-3134
- 波佐見町保健衛生課 ◎電話 0956-85-2111 ◎FAX 0956-85-2337

平成20年4月発行
編集・発行/長崎県環境政策課
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
TEL 095-895-2355
FAX 095-895-2566

